

富士第一小学校だより

## かじま

7月号

令和4年6月21日



校訓 『強い体 強い心』  
 学校教育目標 『しなやかに 挑み続ける ～支え合い 一歩踏み出す子～』  
 重点目標 『あなたもわたしも 笑顔いっぱい!』

## 「体験から学ぶもの」

校長 齊藤 隆裕

6月7日(火)・8日(水)の1泊2日で行われた5年生の「みどりの学校」は、初日の午後から夜にかけて雨に降られた影響で、キャンプファイヤーが屋外から屋内に変更になった以外は、ほぼ予定通りの活動ができました。コロナ禍ではありますが、宿泊を伴う行事の実施に対して御理解と御協力くださいました、5年生の保護者の皆様には、大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年の「みどりの学校」は、『キャンプファイヤー』『オリエンテーリング』『食事づくり』『紙バンド作り』『防災教室』『自然観察』等、盛りだくさんの内容でなかなかハードな1泊2日でしたが、子どもたちは「みんなで協力!笑顔いっぱい!気持ちをこめて ありがとう」のスローガンの下、元気いっぱい活動することができました。

この2日間の集団生活を通して、子どもたちは「最後までやり抜く」「互いに助け合う」「仲間の良いところを認める」など、多くのことを学ぶことができました。たった2日でも、ものすごく成長できたのは、不便な環境の中、体験を伴う活動ができ、様々な失敗や苦労してやり遂げるといった経験をしたからだと考えています。

ここで、普段の生活を振り返ってみますと、子どもたちを取り巻く環境は非常に恵まれています。黙っていても新しい情報が次々と入って来ますし、色々身回りの世話をしてくれる家族がいます。かなり安全で、あまり苦労をしない環境の中で生活をしていると思います。お家の方も心配のあまり、すぐに子どもに手を貸してしまったり、親が先にやってしまったり、ついつい口うるさくなったりということがないでしょうか。

以前から、子どもたちの「体験不足」が言われています。私は、「体験活動」とは「特別な環境で特別なことをする」ばかりではなく、日頃から子どもに考えさせたり、判断させたりして、まずやらせてみることも大切な体験活動ではないかと考えています。私たち大人が失敗を恐れ、安全を重視するあまり、子どもたちが体験できる場を奪ってしまっているかもしれません。

「失敗は発見の種」と、4月の始業式の折に子どもたちに話をしました。何も考えず、何の判断もなしに行動して失敗するのは成功につながりません。しかし、子どもなりに考え、判断して行動した結果は、たとえ失敗でも次に成功するための新たな方策を発見する種となります。子どもは放任でも過保護・過干渉でも成長しません。時と場合によりますが、子どもに失敗させる覚悟や我慢も必要ではないでしょうか。

失敗から多くのことを学び、それをいろいろな場面で生かすことのできるたくましい子どもたちを育てるよう、学校・家庭・地域の3者が連携して取り組んでいきたいと思ひます。御協力よろしくお願ひいたします。